



串良町商店街

昔 昭和52年



今



串良町岡崎交差点付近の様子。当時の商店街には履物、ミシン、金物などを専門的に取り扱う店のほか、食堂、旅館などが所狭しと立ち並んでいました。平成22年には広い歩道が整備され、現在も、日用品や衣服等を取り扱う商店などが、地元の人たちの買い物や交流の場として、親しまれています。



串良小学校内にある鶴亀城跡の石碑

江戸時代、薩摩藩には郷中教育とよばれる独特の地域教育制度が存在しました。郷中教育では、各集落の二才(およそ14歳から24歳の青年)たちが、稚児(8歳から13歳くらいまでの子ども)たちに学問や書道のほか、心身を鍛錬するための剣術を指導していました。幕末期に確立されたこの教育制度は、上下関係を重んじ、議論よりも行動を尊ぶ土風と、団結心が強く命令に忠実な藩士を育成しました。

こうした藩士たちの力は、戊辰戦争などで存分に生かされましたが、西南戦争後は土風の乱れがひどくなったことから、これを是正するために青少年の精神修養機関として、郷中教育の精神を受け継ぐ学舎が相次いで設置されました。

現在このような地域教育制度が見直され、地域の大人が子どもへの教育を支えていく取り組みが広がっています。地名「鶴亀」のごとく、ゆつくりと伸びやかに成長してほしいとの願いを込め、平成29年度から串良公民館で「串良鶴亀塾」を開塾。主に自学自習や地域行事などの体験を通じて、学ぶ楽しさと郷土愛を育んでいます。

串良でも、鶴亀城(串良城)跡地の串良小学校の旧裁縫室を利用して、「鶴亀学舎」を開塾。尋常小4年生から高等小学校に在籍する土族の子どもを対象に、武道や山登り、海水浴といった心身を鍛える教育が大正末期まで行われてきた。



串良鶴亀塾での脱穀体験

歴史を受け継ぐ「鶴亀塾」

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ!